

紅葉が丘支部

歯科 班会

9月8日(金)、みどり病院の大竹歯科医師を講師に、歯科班会を参加者11名で開催しました。

実際に外来診療が始まるのは、新みどり病院が開院し、現在の透析センターの跡に2025年1月オープンを目指すとの事でした。

大竹先生は現在、みどり病院の入院患者さんや、民医連系列の有料老人ホームすこやかの入居者さん、みどり福祉会の高齢者施設の



大竹祥一郎歯科医師

入居者さんに訪問診療を行っているとのこと。先生の話から、民医連の方針でもある「患者さんに優しい医療」を期待できそう

で、参加者の中からも、「今は車の運転ができるので、遠くの歯科にかかっているけど、車に乗れなくなった時、近くに信頼のできる先生の歯科ができる事はうれしい」との声や「1年半半ばかり早くオープンしてほしい」などの声もあり、歯ブラシの選び方や、磨き方のコツなども教えてもらい話が弾みました。又、寝たきりになった時には、訪問診療もしてもらえたらという意見もありました。これからますます高齢化が進む地域にとっては、内科と歯科の先生の連携も必要になっ

てくるのではないのでしょうか。(武藤 さち子)



芥見南支部

「お出かけ食事会」と塩分チェックの学習会

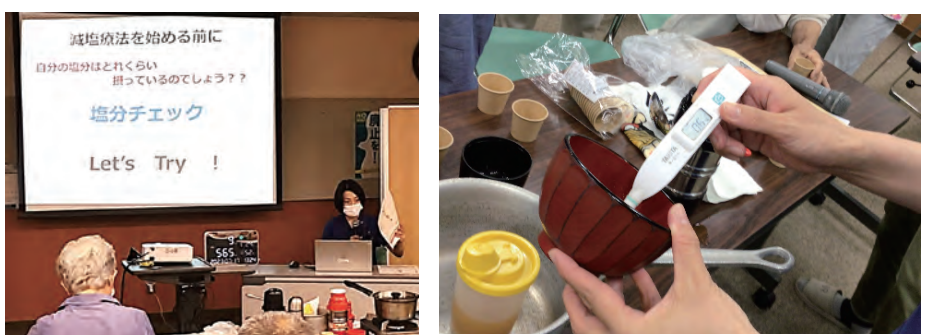
ここしばらく実施できなかった「健康班会」を開きました。

7月17日とても暑い日でしたが、18名の会員の参加がありました。高齢で一人暮らしの会員が多く、おしゃべりしながらの食事を楽しみにされていました。

当日の朝は、安心安全に食事ができるよう、新型コロナウイルス抗原検査キットを支部で薬局にて事前購入し、検査を各自で行い、全員が陰性と確認してから、車4台で出発しました。

料理は十種類ほどの小鉢で、純和風のおいしい料理でした。残念だったのは、十八人が一つにかたまつて会食ができなかったことです。それでも、それぞれのテーブルでは、和やかにおしゃべりができたので、みなさん大満足でした。

食事会でおながいが満たされてから、「ケアハウスささゆり」に移動して、みどり病院の和田管理栄養士を講師に「塩分チェック」の学習会を行いました。家庭での味噌汁の味付けをチェックしてもらい、「ああ、ウチは塩分少なめで安心したわ」、「市販のインスタント味噌汁は、やはり塩分多いね」と塩分チェックの結果に安心した人、実感した人それぞれでした。今回の「塩分チェック」健康班会では、麺類の汁まで完食することは塩分過多になり、良くないことなど、改めて塩分摂取について学習になった班会となりました。



野村・和高支部 理想の福祉を共に創ろう

みんなの声と協力で「よろまいか！」

野村・和高支部は、5周年を迎えました。(創立2018年7月28日)

第6回総会は、7月29日9時半から「みどりの家」で参加者20名(職員4名)にて開催しました。みどり病院中尾事務長さんから来賓挨拶として、芥見・岩地域を「誰もが健康で安心して住み続けられる地域づくり」のモデル地域にしたいという思いで努力している支部に激励がありました。また、そうした地域の思いにこめられた「新病院建設」成功への懸念の決意を述べられ

私は、「あるべき医療と福祉を決めるのは誰かでは無く、実際にその地域に生活する私たち自身で、私たちが手をつなぎ、知恵を出し合ってより良い社会を創るために行動することの積み重ねによって一歩一歩実現していくものだ」と思います。(支部長 戸崎 光明)

功へみんなで共有しました。記念講演にフアルマネットぎふ顧問の青山栄司薬剤師から「人のつながりは生きる力」人類史的見地からの資料をまじえて深いところからのお話も伺いました。総会では、地域の中で深く根づき他の組織とも連携しつつ、誰もがいつまでも安心して暮らせる地域づくりをめざす、人と希望と未来への道を確認しました。



北山・東山支部 手配りしてみませんか？

北山・東山支部では、健康とくらしの手配り協力会員さん二人が様々な事情で退く事となり、代わりの手配り会員さんを探すため、訪問行動をしてお願ひに回ることになりました。1人でも良い返事がもらえればとの思いで、30軒ほど会員宅を訪問したところ、5人の方から「配ってもいいよ」とうれしい返事を頂き、新しいつながりができました。

手配り協力会員が増えれば、会員相互のつながりも深くなり会員や地域の生の声、例えば「紙の保険証が無くなったら困る」「コロナに感染したら死んでしまうのではないかな」というような不安な思いや意見、要求が出るようになれば、友の会の活動も広がり活発になるのではないかと思います。他の支部でも手配り会員さんがいなくて困っている所は、訪問行動をおすすめします。(支部長 工藤 仁)

正直驚いたと同時にとてもうれしく思いました。「動けば何が起きる！」この5人の方には家の近くの会員宅に手配

平和のバトンを次世代に繋ぐために

児童文学作家 堀野 慎 吉

9条を守ろう

今夏、第十冊目の絵本を発売しました。舞台は、西濃関ヶ原、伊吹山麓。絵本のタイトルは「伊吹よ今日も美しく 関ヶ原 玉の火薬庫物語」。

岐阜の町から西に見る伊吹山は、本当に美しく神々しい山ですね。伊吹山を取り巻く岐阜・滋賀・三重などの校歌にもたくさん歌われ、また二百八十種類にも及ぶ薬草の宝庫として親しまれている山、伊吹山。この山麓の玉の集落に戦時中「東洋一の火薬庫」があったことをご存知でしょうか。

明治以降、わが国は、世界の列強に引けをとらないように産業を興し軍備を増強する「富国強兵」の政策を推し進めました。その一環として地理的・気象的な条件を考慮して、関ヶ原の地に巨大な火薬庫を作る計画が持ち上がったのです。平和だった村は、いつしか敵しい軍の監視下におかれ、火薬庫のある最も危険な村に変わり、住民は恐怖を抱えながら、暗く長い戦争への道を突き進んで行ったのでした。

女優の大竹しのぶさんは、あるインタビューの中で次のようなことを言われています。「いつの間にか大きな力にまきこまれていく恐怖を感じる。『何だろう、今聞こえてくる足音は。あの戦争も人々が変わらね』と感じているうちに始まったのではないかな。今世界は、ロシアのウクライナ侵攻にみられるように戦火の嵐が吹き荒れています。先の戦争で三百万人にも及ぶ戦死者をだし、二度と戦争をしないと誓った日本も、敵基地攻撃能力を保持し軍備増強が行われようとしています。これは、戦後日本が守ってきた専守防衛の理念を転換するもので、それが十分に論議されなまま閣議決定されてしまいました。まさに「平和危うし」の時代に入ったと言えるでしょう。

私たちは歴史の教訓に学び、なんとしても、いつか来た道、新しい戦前を辿ってはなりません。戦争は、愛する者を引き裂き、憎悪を煽り、人と人が殺し合う最大の犯罪です。戦後七十八年が経過し、戦争の風化が懸念される中、この絵本が多くの人に読まれ「戦争と平和」の問題を考える一助になることを心より願っています。私たち大人は、「平和のバトン」を次世代に繋ぐための責任があるのですから。



1冊税込み1,300円 ◆児童文学作家 堀野 慎吉◆ ★絵本の問い合わせ先 080-1608-2302(堀野まで)